

令和8年度 学校経営方針



専門教育の継承と発展を目指す学校

1 常に進歩する学校

創立122年目。伝統ある本校の教育の継承とは、単なる踏襲とは異なります。常に、なぜ、何のためという目的や意義を考え、教育活動を見直し、時代のニーズに応じた改善の積み重ねが必要です。今年度も変えること、新規に取り入れること、止めること等、改革・改善の視点を大切にしていきます。教職員一人一人が改革者です。常に進歩する学校を目指します。

★踏襲は後退、変化は進歩

2 組織力の安定による揺るぎない学校運営

学校組織を盤石なものにすることで、本来の教育実践の成果を最大限に発揮できると共に、多様な対応事案にも落ち着いて的確に向き合えます。その基礎的な要因が、情報の流れ（双方向の流れ）です。「報告・連絡・相談」さらに「確認」を徹底します。全教職員が、組織の一員としての意識を強くもって、学校組織の安定と発展の体制を作っていきます。

★現場職員（担任等）↔部署の長（学部主事等）↔教頭↔校長

3 当たり前を確実に

日々の学校運営や教育実践は、地道でいねいに行わなければなりません。当たり前を確実にとは、人間として、社会人としての良識、職業人としての良識、そしてそれぞれの専門職としての良識にしたがって行動するということです。

★凡事徹底

4 固定観念と先入観の払拭

人間誰もが、固定観念や先入観に陥る恐れがあります。固定観念に縛られると、新たな発想や建設的な意見を生かすことができなくなります。また、人・もの・ことに対する先入観に操られると、正しい判断を見失う恐れがあります。それを防ぐためには、可能な限り正しい情報を集めること、根拠を見付けることが重要となります。

★固定観念は悪、先入観は罪

5 言葉にこだわる教職員

聾学校はことばの学校でもあります。子供たちの発音・発語を促し、生活中から言葉を育てていきます。そのために、教職員は自分で使う言葉に、子供に教える言葉にこだわります。そして、音声言語、書記言語ともに、正しい言葉とは何か、生きた言葉とは何かを考え、実践を重ねます。

★ことばを教え、ことばが育ち、ことばが人をつくる